

| | |
|--------------|---|
| Title | 合理的・科学的な癌化学療法確立を目指して |
| Author(s) | 藤原, 康弘 |
| Citation | 癌と人. 25 P.37-P.38 |
| Issue Date | 1998-03-31 |
| Text Version | publisher |
| URL | http://hdl.handle.net/11094/23773 |
| DOI | |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

合理的・科学的な癌化学療法の実立を目指して

藤原 康弘*

抗癌剤による治療を開始される前に、患者さんは実際に治療を担当する医師から、期待できる「効果」と覚悟しなければならない「副作用」について説明をうけることと思います。治療を受けようとする患者さんにとっては、「効果」はもちろん「副作用」がどんなものであるかが、治療意志の決定に大きな影響を与えるのではないかと思います。

現在使用されているほとんどの抗癌剤では、例えば、体表面積（身長と体重により決まります） 1m^2 あたり 100mg というように、患者さんの体の大きさに従って投与量が計算されます。つまり、体の大きな患者さんでは小さい患者さんより多くの抗癌剤が投与されることとなります。ある程度は、このような体の大きさによる投与量の調節のみで、抗癌剤の「副作用」を許容範囲にとどめることが可能でした。しかし、従来の投与量調節のみでは、残念ながら予測した以上に重篤な「副作用」が出現することも事実です。

突然ですが、身近にいる「お酒にとっても強い人」と「とても弱い人」の事を思い浮かべて下さい。果たして、「とても強い人」は必ず体が大きく、「とても弱い人」は必ず体が小さいのでしょうか。決してそんなことはないと思います。体の大きな人でも一滴もお酒が飲めない方もいれば、小さい人でも大酒豪の方もいます。なぜでしょうか。これは血液の中に入ってきた「お酒（アルコール）」を代謝する

能力に個人差があるからです。この能力の個人差は、体の大きさ・飲酒の習慣によっても左右されますが、いわゆる「遺伝的な体質」も深く関係します。「遺伝的な体質」とは、わかりやすく言えば、血液型がA型、B型、AB型、O型とあるように、アルコールを代謝する酵素に、「代謝しやすい型」と「代謝しにくい型」があるのです。

では、アルコールを抗癌剤に置き換えた場合はどうでしょうか。これまでは、先ほども述べましたように、抗癌剤の投与量は体の大きさによってのみ調節されてきました。表現は適当でないかもしれませんが、抗癌剤についても、「体の大きい人＝抗癌剤に強い人＝副作用の少ない人」という関係は、常にはあてはまるものではありません。抗癌剤を代謝する酵素にも「代謝しやすい型」と「代謝しにくい型」があります。この「代謝しにくい型」の酵素をもつ「遺伝的な体質」の患者さんに、体の大きさのみで決められた量が投与されたらどうなるでしょうか。アルコールの場合は「急性アルコール中毒」程度ですみませんが（ただ、急性アルコール中毒でも時に死に至ることもあります…）、抗癌剤の場合は予測しえない重篤な「副作用」を生じることになります。

私達、広島大学第二内科では、抗癌剤を投与する前に、投与される抗癌剤の代謝酵素の「遺伝的な型」を診断し、なんとかまず重篤な「副作用」を回避する努力を続けてきました。これ

*広島大学医学部附属病院総合診療部 平成8年度研究助成金交付者

からは、さらに進んで、患者さんの色々な「遺伝的な体質」と癌細胞の特性を探り、ひとりひとりの患者さんに対して合理的・科学的背景を持った癌化学療法 of 確立を目指していきたいと考えております。もちろん、合理的・科学的な治療を目指しても、一番大切なのはまず「人間的」であることは決して忘れることはありません。

ん。

最後に、(財)大阪癌研究会より平成8年度「一般学術助成金」として、「臨床分子薬理遺伝学による抗癌剤の効果・副作用予測システムの開発」にご援助を頂きましたことに心よりお礼申し上げます。

